

No.26

2007.3.30

# いしかわ の遺跡

平成18年度発掘速報会

## よみがえる石川の遺跡

## 開催



平成18年度発掘速報会「よみがえる石川の遺跡」は、  
県立生涯学習センターを会場として平成19年2月25日  
(日)に開催しました。

当センター開所以来毎年催しているこの速報会では、平成18年度に県内各地で実施された発掘調査のな  
から6遺跡の報告があり、珠洲焼の操業に関する報告や復元整備される金沢城河北門の調査成果など、  
発掘調査員自身によるスライド等を用いた遺跡の生の情報は、多くの参加者をいにしえの石川へと引き込  
んでいたようです。

さて、平成19年度にはどのような報告がなされるのか？今から県内各地で行われる発掘調査から目が離せ  
ません。

財団法人 石川県埋蔵文化財センター

Ishikawa Archaeological Foundation

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1

TEL 076-229-4477 FAX 076-229-3731

E-mail mail@ishikawa-maibun.or.jp

ホームページ <http://www.ishikawa-maibun.or.jp/>

## 平成18年度発掘調査から

# 徳丸ジョウジャダ遺跡

徳丸ジョウジャダ遺跡は白山市徳丸町と石川郡野々市町柳町地内にまたがって所在する、弥生時代から平安時代にかけての集落跡です。遺跡は、手取川の扇状地上に立地しており、今年度調査区の中央部には手取川七ヶ用水の一つである中村用水が流れています。また、遺跡の南東を上げば、霊峰白山がそびえ立ち、空気の澄んだ日には、その美しい稜線を眺めることができます。

今回の調査は、海側幹線の延長にあたる国道改築一般国道305号および緊急地方道路整備(街路)事業に伴う発掘調査となります。

調査の結果、弥生時代の竪穴住居や土坑、小穴、平安時代の溝などが確認できました。特に、弥生時代の竪穴住居は良好な状態で残っており、住居の構造などを知る上で貴重な成果を得ることができました。また、出土品も興味深く、甕や高坏といった土器とともに、管玉の未成品やその製作時にでた石屑・製作道具など、玉つくりに関する石製品が多数出土しました。未成品には、原石を打ち欠いて比較的良質な石質部分を取り出した荒割段階のものから、穿孔を終え、仕上げの磨きを施す手前段階にまで至る、様々な段階のものを確認しています。

今後、これら出土品を詳しく整理・研究していくことで、この地における、玉つくりを担った人々の暮らしぶりや持っていた技術、製作方法などについて、解明していきたいと思います。



調査区遠景(北西から)



弥生時代の竪穴住居(北東から)



発掘調査風景  
(竪穴住居より白山を望む)



竪穴住居から出土した  
弥生時代の甕



管玉の未成品や製作時の石屑  
および製作道具

## 七尾城跡



空から見た調査区

七尾城跡は七尾市街地の南東方約5kmに位置し、標高約300mの城山には、郭・石垣・土塁・堀などがのこり、麓には城下町が形成されています。

発掘調査は一般国道470号能越自動車道建設に伴うもので、今年度は城下町を対象としています。掘立柱建物や竪穴状遺構、井戸のほか、多数の土坑・溝・柵などを確認し、城下町の変遷にともない数時期にわたる遺構が展開していることが明らかになってきました。

調査範囲の西側では、数基の井戸や土取り穴と推定される大型土坑、建物の柱穴と考えられる小穴を多数確認しました。その数の多さから複数回の建て替えが想定されます。竪穴状遺構には、多数の土師器皿が出土する層を2面もつものも確認できました。また、町割りに伴う区画溝とみられる溝も検出しました。

一方、東側では、柵に囲まれた施設と考えられる遺構群を検出し、柵の南東辺に門柱と控え柱の礎石を確認しました。また、穴に据えられた越前焼の大甕を確認しました。高さ・胴径とも1mほどの大きさで、3基以上が並んでいたと考えられます。平成17年度に工房群を確認した区域では、その廃絶後盛土がなされており、城下町が再構築されていることがうかがえます。

主な出土遺物には、土師器、国産陶磁器、輸入陶磁器（青磁、白磁、染付など）、サイコロ状土製品、銅銭、木製品があります。



竪穴状遺構(遺物出土状況)



石組井戸



大甕埋設遺構

# 平成19年度 古代ふれあい体験事業案内

## 4～6月

### 手形・足形づくり

4月28日(土)～5月6日(日)  
対象:小学校4年生以下



## 7～9月

### 夏休みはにわづくり

7月21日(土)～8月13日(月)



### 親子の発掘体験教室

7月28日(土)・8月4日(土)  
募集:小学校4～6年生とその保護者各20組(要申込)



## 10～12月

### 古代体験まつり

10月13日(土)10:00～16:00  
10月14日(日)10:00～15:00  
会場:埋文センター 古代体験ひろば



### 特製まが玉づくり

11月1日(木)～11月7日(水)



## 1～3月

### まいぶんセンターの古代体験

個人の随時体験は、予約不要で月替わりのメニューを体験いただけます。  
団体系験・施設見学については、平日・要予約です。

体験

講座

展示

### まいぶん考古学講座 「まつりの考古学」

第1回 5月20日(日)  
第2回 5月27日(日)  
第3回 6月3日(日)  
第4回 6月10日(日)  
第5回 6月17日(日)  
(各回とも13:30～15:00)

考古学や埋蔵文化財に関する話題を職員がわかりやすく解説します。

### 古代体験学習講座 糸づくりと草木染め

6月24日(日)  
募集  
小学校5年生以上  
20人  
募集期間  
5月1日～6月20日



### 移動講座 「まいぶん出り張り」 のと・かがを掘る

能登  
7月1日(日)13:30～  
七尾サンライフプラザ  
加賀  
7月8日(日)13:30～  
小松市第一地区  
コミュニティセンター

### 古代体験学習講座 まつりの 土器づくり

9月23日(日)  
募集  
小学校5年生以上  
20人  
募集期間  
8月6日～9月19日

### 古代体験学習講座 編布と 組みカゴ

7月1日(日)  
募集  
小学校5年生以上  
20人  
募集期間  
5月1日～6月27日



### 古代体験学習講座 古代の食器 づくり

10月28日(日)  
募集  
小学校5年生以上  
20人  
募集期間  
9月3日～10月24日



### 話題の 遺跡講座

11月11日(日)  
13:30～  
会場  
石川県立  
生涯学習センター  
全国的に話題となっている遺跡の発掘成果や考古学の研究テーマ等をわかりやすく解説します。

### 古代「祭・食」体験講座 復元 古代祭器

11月18日(日)  
募集  
小学校5年生以上  
20人  
募集期間  
9月25日～11月14日

### 古代「祭・食」体験講座 復元 古代食

12月9日(日)  
募集  
小学生以上20人  
募集期間  
10月15日～12月5日



### 古代体験学習講座 古代「祭・食」体験講座

お問合せ、お申込先  
埋文センター企画課  
TEL 076-229-4477

### 古代体験学習講座 布を織る

3月2日(日)  
募集  
小学校5年生以上  
20人  
募集期間  
1月9日～2月27日



### 発掘報告会 「いしかわ を掘る」

3月9日(日)  
13:30～  
会場  
石川県立  
生涯学習センター  
県内で行われた発掘調査から、代表的な遺跡について調査員がわかりやすく報告します。



### 加賀郡橿原春季公開

4月26日(木)～5月7日(月)

### 第9回 いしかわの発掘展

7月20日(金)～9月2日(日)

### 加賀郡橿原秋季公開

9月28日(金)～10月15日(月)

### まいぶんセンターの展示

本館展示室では石川県内で出土した土器や石器などの遺物や、調査状況の写真や図などを展示しているほか、本館ホールで速報展示を行っています。

### 出前考古学教室

学校や公民館などへ職員が出かけ、遺跡からの出土品などを活用して  
・体験学習・ミニ展示  
・ミニ講座・報告会  
などを行います。

### まいぶん友の会

埋文センターが実施する発掘調査や各種行事など「まいぶん」情報の提供が受けられる会員制サービスです。  
会費:年額1,000円

会員  
募集中!

## 平成18年度 古代体験学習講座「古代のごはん」

古代体験学習講座「古代のごはん」は、平成19年1月21日(日)に行われました。昨年度の「古代米料理教室」に続く「食」に関する体験講座の第2段ですが、古代米などを用いた加工～試食というだけでなく、当時の道具や方法を踏まえた講座となるよう工夫を凝らしました。

復元弥生土器で炊いた赤米(ウルチ)の試食、赤米・黒米(いずれもモチ)を笹の葉に包んで煮るチマキの加工と試食、そして、竪杵などによる粟餅つき(クルミと蜂蜜・水飴で作った2種類の「餡」をつけて試食)など、参加者のほとんどが餅つきは初めてというなか、皆さん苦戦されながらも、古代人の知恵や技に理解を深めていただけたかと思えます。

今回は、古代の主食穀物の加工～試食体験ということで、古代の食事(広い意味でのごはん)体験とはなりませんが、食生活の見直しや古代米をはじめ古代の食材の各種効用などが説かれる昨今、それら食材の確保や栽培法の開発などに腐心した先人の営みに思いをはせながら、食器を含めた古代食全体が体験できるような講座の開催も魅力的です。

今後とも、食に関する考古学的な研究等を踏まえ、体験内容・方法の開発などに努めていきたいものです。



## 平成18年度 古代体験学習講座「古代のそめもの」

古代体験学習講座「古代のそめもの」は、平成19年3月4日(日)に行われました。文献や出土品、伝世品などからわかった自然の素材を用いて染色を行うこの講座も、今年度で3回目になります。

今回の講座では、ガイダンスの後、灰汁とミョウバンの2種類の媒染剤ばいせんざいを使って、丁子(クローブ)を染め比べてみることに、刈安と紫根の2種類の染料あおしろつるばみを染め重ねて作った「青白椽」色の纈纈染めこうけち(絞り染め)を行いました。

参加者の方は、丁子染めでは、染液から媒染剤に移した絹布の色が変化する様子や、媒染剤の違いによって異なる色味の色ができる様子を熱心に観察されていました。また、纈纈染めでは、頭の中でしっかりと出来上がり後の姿を思い浮かべながら、輪ゴムや小石、割り箸などを使って、絞り作業に取り組み、また、刈安(黄色)と紫根(紫色)で青白椽(緑色)ができたことに驚かれています。

参加者一人ひとりが、古代の人たちの色彩感覚に思いをはせつつ、和気あいあいとした雰囲気の中で作業を進め、個性豊かな作品を仕上げていかれました。



## 収蔵品ギャラリー

当センターが保管している数多くの出土品の中から、選りすぐりの「収蔵品」をご紹介します。今回のテーマは「古代米」です。

### 収蔵品No.10

チマキ状炭化米塊 - 中能登町 杉谷チャノバタケ遺跡 -

古代米とは、栽培稻の原種である野生稻の特徴を受け継いでいる稻の「果実」のことです。稲は、日本列島においては縄文時代から栽培され、弥生時代に入り広範囲にわたって本格的に水田稲作が開始されたもので、米を主食に据える現代の私たちにとって、大変、縁(ゆかり)の深い穀物といえます。

ご紹介する「チマキ状炭化米塊」は、1987年(昭和62年)11月22日、鹿島郡中能登町(旧鹿西町)に所在する杉谷チャノバタケ遺跡から、弥生時代中期(約2,000年前)の竪穴建物(住居跡)の壁際より単独で出土したものです。

底辺が約5.0cm、他の二辺が約8.5及び8.0cmの平面略二等辺三角形を呈する炭化米塊(厚さ約3.5cm)は、加工・調理されたものとしては日本最古の出土品として、翌月(22日)の報道発表以来、「日本最古のおにぎり」(の化石：生物の痕跡を指すという広い意味では、確かに本品はイネの化石とはいえるのかもしれませんが)として話題を集め、地元においても町おこしの各種イベント等が開催されてきました。

米粒の解析結果により、短粒・極小粒の日本型を呈する水稻品種の晩稲の糯米(もちごめ)で、おそらく蒸されたのち焼かれたものとされ、形状等からも、炊かれて握られた握り飯(=おにぎり)というよりは、包まれて蒸された(あるいは煮られた)ものに近いという意味で、チマキ(粽)状炭化米塊とされたものです。

建物の壁際からの単独出土であることや粽の民俗事例などから、本品については、食用というよりは魔除け等呪的な用途が想定されますが、食べられるものであることに変わりはなく、食に関する体験講座等を支える重要な「証人」ともなっています。

一般に「食品」に関わる遺物は遺存しにくく、それが土中に埋もれて遙か時を隔ててその歴史を語りだすといったことはめったにはありません。まさに発掘の醍醐味とでもいえるべきものでしょうか。当センターにおいて、この二十年間、常に、写真貸出し等の上位を占める「人気者」でもあります。

### No.10



部分



## 訪ねてみよう能登・加賀の遺跡

### 県指定史跡 ようこうじ 永光寺

羽咋市酒井町に所在する洞谷山永光寺は、地元有力者の寄進をうけた曹洞宗の第四祖瑩山紹瑾により、正和元(1312)年に創建されました。朝廷や室町幕府、在地守護などの庇護を受け、隆盛時には30余の堂塔と20余の支院を擁すると伝える有力寺院でしたが、応仁・天正の2度の戦火により焼失し、天正10(1582)年に前田利家により再興された後は、総持寺の末寺とされました。現在の伽藍は、寛永以後に再建されたものです。

山門をくぐると、山門と正面の法堂(本堂)を結ぶ軸線の右手に庫裡、書院、方丈、浴室、左手に僧堂(座禅堂)、東司(便所)、鐘楼などがそれぞれ配置され、回廊で結ばれています。こうした伽藍配置は「永光寺方式」とも呼ばれています。

また、法堂の奥に伝燈院(開山堂)、更に、その奥の台上には計10m余、高さ5mの墳丘「五老峰」があります。「五老峰」には、曹洞宗五祖(如浄、道元、懷奘、義介、瑩山)の遺物が収められ、信仰の中心とされています。なお、庫裡の右側台上の塔跡は、暦応3(1340)年に足利尊氏、直義兄弟の発願により建立された能登国の利生塔の跡地とされています。



永光寺表参道



山門と石段



法堂

所在地：羽咋市酒井町イ-11  
交通：能登西部バス“寺境”停留所から  
徒歩15分  
お問い合わせ：羽咋市教育委員会 文化財課  
電話 0767-22-5998  
( 開門時間：8:30~17:00  
 拝観料：大人300円(団体割引あり) )